

# センター試験のリスニングを皆で体験！

内田 照久

大学入試センター 研究開発部

## 1. 大学入試センター試験のリスニング

### 1.1. 個別音源方式

わが国でも屈指の大規模一斉実施型の試験である大学入試センター試験に、英語リスニングテストがはじめて導入されたのは2006年(平成18年)1月です。そこでは個別音源方式が採用されており、個々の受験者にICプレーヤーを配布して、音声をイヤホンから聞きながら解答を進める方式で行われています(内田・大津; 2013)。

図1に、現在、使われているICプレーヤーとその音声メモリーの写真を示します。こちらの機器は、歴史的に大きく捉えた場合、第3世代にあたる機器です。今回の「公開企画1」では、この最新モデルを使ってリスニングの受験に挑戦します。

### 1.2. 個別大学の入試への影響

ここで、個別大学入試でのリスニングの実施状況を見てみます(図2)。個別入試での英語リスニングは、高校に導入されたオーラル・コミュニケーションを学習した生徒が、大学受験をする1997~2000年度(平成9~12年度)頃までは増加傾向が続いて、その後、しばらくは、ほぼ横ばいの状態で推移をしてきました。

しかし、センター試験にリスニングが導入された2006年度(平成18年度)からは一転して急激な減少へ転じました。この間、個別入試のリスニングは、実施学部数で約1/4に、大学数では半減しています。

これを見る限り、現在も多くの国公立大学や私立大学では、センター試験の英語のリスニングを利用していると推察されます。



図1 センター試験の英語のリスニングで使用するICプレーヤーと音声メモリー(平成29年度(2017年度)追試験版)

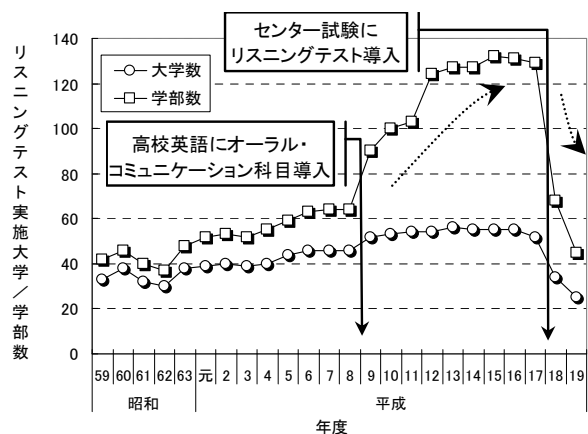


図2 個別試験における英語リスニングテスト実施大学・学部数の推移(国公立大学合計)  
杉澤・椎名・内田(2008)より再掲

## 2. センター試験の自己採点

### 2.1. リスニングと自己採点

センター試験の利用者は、最終的な出願大学・学部を選定するために、センター試験の自己採点の結果を参考にして出願することが多いようです。

そのためにはマークシートへの解答だけでなく、自分が持ち帰る問題冊子の方にも、自分が選んだ解答を記入しておかなければなりません。それは、音声を聞きながら、直接マークシートに解答するリスニングでも同様です。

今回の企画の受験体験の中でも、問題の音声を聞きながら、解答をマークシートに記入しつつ、さらに問題冊子にも記録していく、といった作業手順も試してもらえればと思います。

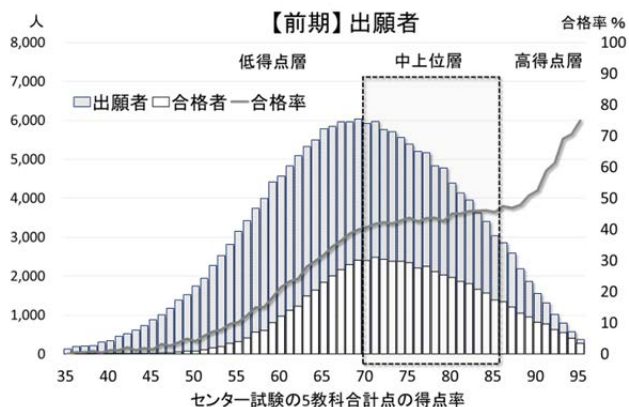


図3 高校新卒のセンター試験受験者における国公立大学出願者数と合格者数、及び合格率曲線(平成28年度 前期日程)

### 2.2. センター試験の得点率と合格率の停滞現象

ここで、センター試験を介して国公立大学に出願した高校新卒者における、センター試験の5教科の合計点に対する大学の合格率を見てみます(図3)。図3を見ると、合格率は次第に上昇していきませんが、途中でなぜかその上昇が止まります。そしてしばらく平坦な状況が続いて、その後、再び上昇していきます。この合格率の停滞現象は、得点率が70%~85%の区間で生じていました。

この合格率の停滞の意味を考えてみます。合格率の逆数は、当該の受験者にとっては競争倍率です。合格率が50%なら倍率は2倍ですし、25%ならば倍率は4倍だったことになります。合格率の停滞を、競争倍率として捉え直すと、その得点範囲では、競争倍率の「平準化」がなされていることになります。

そこでは、センター試験の自己採点結果の利用が、結果的に出願先の難易度に応じて、絶妙な按配で志願者を分散配置するためのフィルタとして機能している可能性があります。

ここからも、自己採点を適切に行う意義が読み取れるかも知れません。

## 3. まとめ

本企画では、センター試験で使用するICプレーヤーを使ってリスニングの受験体験をするとともに、自己採点に向けた作業手順にも挑戦します。さらに、個々にイヤホンから直接音声を聞くことができることの優位性を示す、音声に係わるデモンストレーションも示せればと考えています。

### 謝辞

本企画は、JSPS科学研究費補助金(基盤研究(A) JP16H02051, 及び基盤研究(C) JP15K04103)の助成を受けました。また、リスニング用のICプレーヤーの使用にあたっては、大学入試センター事業部事業調整係にご尽力をいただきました。ここに深く感謝いたします。

### 参考文献

杉澤武俊・椎名久美子・内田照久 (2008). 国公立大学の個別試験における英語リスニングテストの動向調査 大学入試研究ジャーナル, **18**, 155-162.

内田照久・橋本貴充・鈴木規夫 (2014). 18 歳人口減少期のセンター試験の出願状況の年次推移と地域特性 — 志願者の2層構造化と出願行動の地域特徴— 日本テスト学会誌, **10**, 47-68.

内田照久・大津起夫 (2013). 大学入試センター試験への英語リスニングテストの導入に至る歴史的経緯とその評価 日本テスト学会誌, **9**, 77-84.